

脳のしくみと脳の病気

国際親善総合病院脳神経外科では、脳血管障害、脳腫瘍、脊髄疾患や頭部外傷などを中心に診療にあたっています。

『脳外科』というと、一般の方にはあまり馴染みのない診療科かもしれませんが、高齢化社会を迎えるにあたり、脳の病気にも注意が必要と思われます。

たとえば、転倒などの頭部打撲後、数ヶ月してから麻痺や認知症の症状がでることがあります。「慢性硬膜下血腫」をご存知でしょうか？また、認知症の中には手術で治る可能性がある「正常圧水頭症」をご存知でしょうか？

それから、突然発症するため「脳卒中」といわれる、「脳出血」や「くも膜下出血」の原因、治療やその予防についても考えていきたいと思います。

では、このような脳の病気になると、どうして麻痺がでたり、記憶に障害が残ったりするのでしょうか。これらのことも、脳のしくみと一緒に考える時間にしたいと思います。

さいごに・・・日本脳神経外科学会が設立されて、2013年で65周年になるそうです。

脳神経外科医長 萩原 宏之

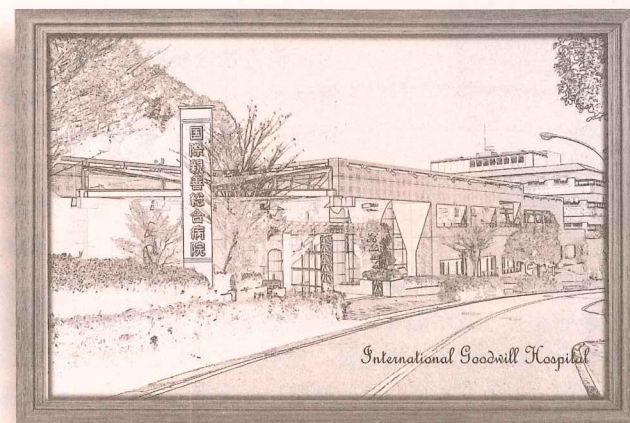
このテーマは

平成25年2月8日(金) 15:00から約1時間

の健康懇話会にて講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)

病院だより



新しい年を迎えて

Masaru Murai

村井 勝

脳のしくみと脳の病気

Hiroyuki Hagiwara

萩原 宏之

国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1
TEL 045(813)0221(代表)
FAX 045(813)7419(総務課)

当院ホームページをご覧ください。

<http://shinzen.jp>



新しい年を迎えて



新年明けましておめでとうございます。

東日本大震災から復興一年目の昨年は、年末に総選挙が行われたりして慌ただしい一年であったように感じます。今年こそは皆様が落ち着いて過ごせる素晴らしい年であるようにと願っております。

国際親善総合病院は本年、その前身である横浜パブリック・ホスピタルが文久3年（1863）に開設以来150周年を迎えることになります。その歴史についてはすでに昨年10月発行の「病院だより第220号」にも掲載させていただきました。横浜の外国人

居留地にできた病院は、4年後に横浜ゼネラル・ホスピタルとなり、居留民を中心とする患者の医療を行う我が国近代医学の黎明期における指導的な病院でありました。第2次世界大戦中敵産に指定後、日本人を中心とする財団が設立され、名称を横浜一般病院（ゼネラルを一般と邦訳）と変更しました。戦後連合軍進駐によって山手地区の病院は欧米人の運営による横浜ゼネラル・ホスピタルと元通りの名になりました。関内相生町の横浜一般病院は国際親善病院と改称し、その後さらに国際親善総合病院となり、平成2年（1990）弥生台に移転いたしました。

た。なお山手の病院はブラフ・ホスピタル（山手病院）と名をかえ昭和57年（1982）まで存続し、その後ブラフ・クリニックという診療所が再開されております。先日国際親善総合病院の山下理事長とともにブラフ・クリニックの理事長リム・ガー・ヒン氏（英国人）らと面談することができ、私たちが調べた病院の歴史に関する古い英字新聞のコピーなどの資料を渡しました。あちらからはクリニックの地下に忘れられていた銘板を見せていただきました。この銘板には1863年から1968年までの歴代功労者（秩父宮妃殿下を含む）の名が刻まれており、その所在が長い間知られていなかったものです。今回の会談はあたかも「親を同じくする兄弟が長い年月を経てやっとお互いに会うことができた」感じがすると双方感激しました。

150周年を機に私たちは「さらなる一步を 明日へ」というスローガンを掲げ、先人の業績を敬い、医療の原点に立ちかえり、社会から負託された使命に対する責任を果たしてゆきたいと思ひます。

本年も皆様のご指導・ご支援を得まして、さらに信頼される病院となるよう努力致す所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

なお来る9月7日（土曜日）午後、泉区公会堂において150周年記念講演会を企画しております。講演者として森喜朗元首相を予定しております。詳細は追ってご案内させていただきますが、地域の皆様、区民の皆様ふるってご参加いただきますようお願い申し上げます。

平成25年 元旦

病院長 村 井 勝

あけましておめでとうございます

～2013年の抱負～

本年も、病気で悩んでいる人に、医師、看護師など病院職員皆で協力しながら、病気を治療・予防し、喜ばれる病院になるよう努力していきたいと思ひます。

副院長 飯田秀夫

創立150年を迎える伝統のある病院ですが、長く存続できたのも地域に根ざした急性期病院という役割をしっかりと果たしてきたからだと思ひます。今年も宜しくお願ひ致します。

診療部長 清水 誠

本年は病院が150周年を迎えます。地域の皆様にさらに貢献できるよう、看護スタッフも一丸となって全力で取り組み、チーム医療を推進してまいりたいと思ひますのでどうぞ宜しくお願ひ致します。

看護部長 楠田清美

当院は今年150周年を迎えます。歴史と伝統の重みを大切にしながら、今年も地域の皆様のために良質で、親切、信頼される医療の提供に腐心します。ご支援をよろしくお願い致します。

管理部長 中川秀夫